

1. 職名及び人員 助教 1名
2. 所属 生物資源科学部 生物環境科学科 陸域生物圏グループ
3. 専門分野 水圏環境学分野
本公募では、陸域生物圏の諸課題の解決に関心があり、従来の環境負荷物質や最近顕在化している微量化学物質などによる水環境汚染の実態解明、または影響評価に関する研究に取り組むことができる人材を求めます。また、水圏環境学分野の学生教育に熱意を持ち、研究成果の地域社会への還元に意欲のある人材を求めます。
4. 担当授業科目 [学 部] 環境科学基礎演習、化学・生物学実験Ⅰ・Ⅱ、生物環境科学実習、生物環境科学実験Ⅰ・Ⅱ、生物環境科学科研究室実験、卒業論文等（すべて分担）
[大学院] 生物資源科学演習(分担)等
5. 応募資格 (1)博士の学位を有すること、または採用予定日までに取得見込みであること
(2)当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること
(3)国籍は問わないが、日本語が堪能であること
(4)採用が決定した場合、確実に着任できること
6. 採用予定日 令和3年10月1日以降のできるだけ早い時期
7. 勤務条件等 (1)身分 公立大学法人職員
(2)給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制（本学給与規程による。）
(3)勤務 裁量労働制
(4)任期 5年の任期制（再任回数に制限はありません。）
(5)定年 67歳
8. 応募書類 (1)履歴書（本学所定の様式1による。*）
(2)研究業績書（本学所定の様式2による。*）研究業績は、①学術論文（査読付き）、②国際会議発表論文（査読付き）、③その他に分類して記載してください。また、主要なもの3編に○を付けてください。
(3)主要論文 3編（コピー可）
(4)これまでの研究、教育及び社会活動（地域貢献を含む）の概要（1000字程度）
(5)教育に対する抱負（1000字程度）
(6)研究・地域貢献に対する抱負（1000字程度）
(7)応募者について意見を求めることができる者2名の氏名と連絡先
(8)科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧
注）*印：履歴書（様式1）及び研究業績書（様式2）については、ホームページ（<https://www.akita-pu.ac.jp/about/saiyo/>）をご参照ください。
9. 応募締め切り 令和3年6月15日（火）必着
10. 選考方法 (1)第一次選考 提出書類審査、学部選考委員会による面接
(2)第二次選考 プレゼンテーション、役員による面接
※第一次選考の学部選考委員会による面接はオンラインで実施する場合があります。
※面接の旅費等は自己負担となります。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先
〒010-0195 秋田県秋田市下新城の中野字街道端西 241-438
秋田県立大学生物資源科学部 大気・水圏環境学分野助教選考委員長 高橋 正
TEL：018-872-1622（ダイヤルイン）、E-mail：tadashi_takahashi@akita-pu.ac.jp
※封筒の表に「生物環境科学科教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。
応募書類は返却しません。
12. その他 本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

（次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく公立大学法人秋田県立大学一般事業主行動計画：

https://www.akita-pu.ac.jp/up/files/www/about/houjin/keikaku/20210317_koudou02.pdf）

今回の公募で求める人材像

生物環境科学科では、自然環境や生物資源に関心があり、教育・研究・地域貢献に熱意を持って取り組める人材を求めます。

各領域に関しての具体的な人材像は下記のとおりです。

[教育]

本学科のディプロマポリシーを理解し、水、環境負荷物質及び陸域生物圏の環境課題の解決に関心のある学生の教育に意欲があり、化学および生物学を基盤とした水圏環境学分野の講義および実験・実習に熱意を持って取り組める人材を求めます。

[研究]

陸域生物圏の諸課題の解決に関心があり、栄養塩や重金属類などの従来の環境負荷物質や最近顕在化しているマイクロプラスチック、農薬、医薬・化粧品などの微量化学物質などによる水環境汚染の実態解明、または影響評価に関するフィールドを対象とした研究に取り組むことができる人材を求めます。

[地域貢献]

秋田県の水圏環境の悪化がもたらす生態系や県民生活に及ぼす影響を考えると水圏環境学分野での地域貢献が一層重要です。このため、次代の秋田県の水圏環境の保全やその課題解決に関心をもって取り組める人材を求めます。

本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

生物環境科学科 大講座制グループ構成

基本方針：人間をとりまく環境を自然科学と社会科学の両面から探求し、深刻化する環境問題を解決することにより、持続可能な社会の構築に貢献することを目指す。

生物環境科学科

陸域生物圏グループ

- ・大気・水圏環境学分野 環境負荷物質の影響解明と持続可能な大気・水圏環境の管理・評価
環境負荷物質、物質循環、実態把握、影響評価、高感度手法開発・評価
- ・土壌環境学分野 土壌の科学的要因解明と、持続的な環境保全的農業技術体系の構築
土壌管理、作物生産、土壌微生物、物質循環、環境負荷低減
- ・森林科学分野 森林に関する基本的生態の多面的解析と、森林と人のふれあいの探究
多様性、長期動態、生活史、森林管理、人と自然との関係性

環境管理修復グループ

- ・自然生態管理学分野 流域生態系の自然循環機能の評価とその保全・修復技術開発
複合汚染土壌、有用生物資源、生物地球化学循環、流域管理手法
- ・生態工学分野 生態系の物質循環機能や水質浄化機能の解析と環境技術開発
富栄養湖沼の水質改善、水界生態系機能、難処理廃水の水質浄化、有用金属再資源化

地域計画学グループ

- ・地域計画学分野 地域資源活用と産業育成と地域経済循環システムの構築
持続可能な社会、地域経済循環システム、地域資源、農業経営と農業法人
- ・環境社会学分野 大量生産大量消費社会から持続可能な社会への転換
農・食・環境、地域の問題解決、八郎湖の再生、有機農業の地域的展開

基礎生命科学グループ

- ・基礎生命科学分野 データ分析の新しい方法論構築
リポタンパク質、トランスクリプトーム解析、インフルエンザウイルス分類